

界面ナノ電子化学研究会（NICE）関係各位

早くも春の気配が感じられるようになりました。

皆様におかれましては益々ご活躍のことと存じます。

さて、2007年9月に第1回を開催しました本研究会も今年3月の開催で第7回を数え、毎回100名近いご参加を頂き、活発な議論を行う場となりました。学会からこのような活動の成果が認められ、NICEは今年1月に、応用物理学会「新領域」から「研究会」に昇格致しました。NICEとしても、まさに春を迎えることになりました。

この季節とともに、今回新体制を整えました。副委員長として、

株式会社東芝 富田 寛 氏

ソニーセミコンダクタ九州株式会社 岩元 勇人 氏

のお二人にご就任いただきました。また、運営委員として7名の方に立候補いただき、既に活動を開始いただいております。さらに、これまでの新領域での活動体制も継続しており、常幹事の皆様や各研究会開催の持ち回りの幹事の方々まで含めると、常に20名以上の皆様にお世話になり、NICEの活動が成り立っております。今回のNICEも皆様の活動のお陰を持ちまして「研究会昇格記念講演会」にふさわしい会を開催することができました。この紙面をお借りして、あらためて御礼申し上げます。

これまでに参加いただいたNICE会員の方は、すでに延べ500名を超えております。また、学会の研究会組織としては珍しく、民間からの参加者が9割以上といった点で、他の学会や研究会を運営されている方々からは驚かれることもあるほどです。多くの企業から参加されている方の構成を見ても、研究者、技術者だけでなく、営業、マーケティングの方も多く、新しいものが生まれそうな独特の雰囲気になってきております。まさに「場」が形成されてきていると感じられます。この特色をさらに生かせる活動として、少人数のワーキンググループも発足しており、今後の進展が期待されます。

本研究会では、学術的な観点から、固液界面における様々な挙動を明らかにするとともに、この分野における若い人材を育成することを目的とし、市場の動向も見据え、今後の電子デバイス業界の発展に寄与していきたいと考えております。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍をお祈りしまして、ご挨拶とさせていただきます。今後とも変わらぬご交誼のほど、よろしくお願い申し上げます。

2010年3月吉日

応用物理学会
界面ナノ電子化学研究会（NICE）
委員長 青木 秀充（大阪大学）